

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4674900164
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	グループホーム スマイル園
訪問調査日	平成20年4月16日
評価確定日	平成20年5月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4674900164
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	グループホーム スマイル園
所在地	出水郡長島町鷹巣3681-2 (電話) 0996-86-1152
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月16日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年1月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		650円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	67 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野医院 児島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町役場や学校、郵便局や銀行といった公共施設が集まる中心部に近く、母体法人が運営する医療機関に隣接して建てられている。医療連携や災害時の避難経路確保の観点から、ホームと病棟は渡り廊下で行き来できる構造となっており、日常的な医療面の支援と合わせて、入居者やご家族にとって大いに安心できる体制が整っている。恵まれた自然環境の中、日頃から地元の食材や自家菜園で採れた野菜が食卓を飾り、季節ごとに、ちまきづくりや餅つき、蕎麦打ちなどを楽しっており、住み慣れた地域でこれまでの生活を継続しながら、入居者と職員が仲良く笑顔で暮らしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営に関する家族等意見の反映」としての第三者委員会設置計画や、「職員を育てる取り組み」としての研修計画の立案など取り組み中の項目を含め、前回の改善課題については管理者や職員のみならず、運営推進会議の議題にあげ、幅広い立場の方々の意見を参考にしながら積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が中心となり職員全員で取り組んでいる。昨年の外部評価で指摘された課題についても全員で話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、同一法人のグループホームと協同で、2ヶ月に1回開催している。町の担当者、家族会代表、地域の代表を含む関係者が毎回参加し、ホームの活動内容や評価への取り組み状況の報告の他、第三者委員会の設置など様々な問題を議論している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口や意見箱の設置、運営推進会議や家族会の開催等、ご家族が意見、不満、苦情を表せる機会を設ける他、外部(県・町・国保連等)に相談できる窓口があることを日頃から説明しながら、直接職員に気軽に話せるような雰囲気づくりにも努めている。現在運営推進会議において、第三者委員会の設置を検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である鬼火焚きに入居者とともに参加したり、ホームの敬老会にご家族や地域の方が訪れるなど、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「全ての方が毎日笑顔で…」と入居者のみならず、ご家族や地域の方をも含めた視点で、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で話し合い、新しい理念をつくりあげることで、より身近なものとなり全員がその思いを共有している。理念の実践に向けて、日々支援を必要としている入居者だけでなく、身体的に自立している入居者とも向き合う時間を持つように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である鬼火焚きに入居者とともに参加したり、ホームの敬老会にご家族や地域の方が訪れるなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が中心となり職員全員で取り組んでいる。昨年の外部評価で指摘された課題についても全員で話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、同一法人のグループホームと協同で、2ヶ月に1回開催している。町の担当者、家族会代表、地域の代表を含む関係者が毎回参加し、ホームの活動内容や評価への取り組み状況の報告の他、第三者委員会の設置など様々な問題を議論している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他、月1回開催される地域ケア会議で町の担当者と連携している。また、個別に担当者と行き来する機会も多く、サービスの質向上のみならず、地域の介護問題に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとの園だよりやご家族の訪問の際、入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理の記録、職員の異動等について適宜報告している。また、遠方のご家族に対しては、金銭管理の写しを郵送したり電話で近況報告等を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱の設置、運営推進会議や家族会の開催等、ご家族が意見、不満、苦情を表せる機会を設ける他、外部(県・町・国保連等)に相談できる窓口があることを日頃から説明しながら、直接職員に気軽に話せるような雰囲気づくりにも努めている。現在運営推進会議において、第三者委員会の設置を検討中である		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者及び職員の異動は殆んど無く、入居者は馴染みの職員による支援を継続して受けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人のグループホームと合同で、毎月勉強会を開催している。また、介護支援専門員や介護福祉士資格取得のために、職員が研修を受講できるような機会を確保するなど、働きながら研鑽できるように配慮している。	○	母体医療機関で開催される勉強会への参加に加えて、関連グループホームとの合同勉強会や地域ケア会議での勉強会について、年間計画等を立てて、職員の知識や経験、役割に応じて、段階的に育成できるような仕組みを構築していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護・福祉関連の事業所と町が協力して、地域ケア会議を組織しており、情報交換や勉強会を行っている。町内には同一法人のグループホーム以外に同業者は無く、隣接する地域のグループホーム管理者と交流を持ちながら、今後のネットワークづくりを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人にホームを見学していただき、お茶や食事を入居者や職員とともに行うなど、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	竹の子掘りやちまきづくり、蕎麦打ちや餅つきなど、季節ごとに入居者が主体となる行事を行ったり、魚のおろし方や食べ方などを教えてもらうなどして、職員と入居者がお互いに学び支えあいながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者それぞれの思いや暮らし方の希望を、会話や行動から把握している。また、ご家族からもこれまでの生活歴や本人の好きなことなどを聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の希望や意見を面会の際に確認しており、日頃生活をともにしている職員の意見とともに毎月のケアカンファレンスで話し合っている。介護計画は、これらを参考にして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて評価を行い、3ヶ月ごとに介護計画を見直し、ご家族の同意を得ている。また、毎日の申し送り時に入居者に対する気付きや意見を出し合い、期間途中であっても必要に応じて計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院への送迎や職員による散髪など、入居者の希望に沿って支援している。医療連携体制を活かして、定期的な検診(レントゲンや血液検査)や訪問診療、往診等を受けている。重度化や終末期についても柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望により、協力医療機関である母体医院による訪問診療や往診を受けている。協力歯科医院についても、必要に応じて往診を実施していただいている。他科受診に関しては、原則としてご家族に対応していただくが、困難な場合はホームで対応して、受診結果をご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケア説明書」「ターミナルケアについての確認書」「ターミナルケア依頼・受諾書」を適宜使用して、終末期のあり方について話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分で衣服の着脱や入浴ができる方については、見守りを中心に行ったり、同性による介助を原則とするなど、プライバシーに配慮している。個人情報の保護に関しては、入居の際に「個人情報公開同意書」をいただくなど、記録等については適正に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否の場合は無理強いせず、レクリエーションの参加も気が向かないときは次の機会に声をかけるなどして、本人の希望に応じて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で育った野菜や、地元でとれた新鮮な魚が食卓に上がることも多い。入居者と職員が一緒になり、貝の実を取り出したりツワの皮を剥いたりして、食事の準備や後片付けを行っている。希望があれば、食事の際に飲酒も可能である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけを行うが、それぞれの希望を確認して無理強いはしない。プライバシーにも配慮しており、見守りを中心に行ったり、同性による介助を原則とするなど入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	三味線を弾いたり太鼓を叩いたり、人が集まると歌を歌ったり、それぞれの入居者の特技や楽しみごとの支援をしている。餅つきや竹の子を茹でるカマドの火の世話など、その人ならではの役割も大事にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出ても見守り程度で済む方、一緒に付き添う必要がある方など、入居者それぞれの状態に応じて支援している。また、お墓参りや理美容院の利用など、個別に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者それぞれの行動パターンを理解して、チャイムを活用したり見守りをするなどで、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、夜間を想定した訓練を含め入居者及び職員全員が参加する年2回の訓練を実施している。日頃より地域の方々への協力要請を行い、訓練には自治会長も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体医院の栄養士が立てており、栄養バランスに配慮したものとなっている。食事や水分の摂取状況、体重の増減を介護経過に記入し、定期的な血液検査等で栄養状態も確認している。日頃は、特に入浴後の水分摂取を習慣づけることで、水分不足が起こらないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる花々や、手作りの鯉のぼりが飾られている。テレビやラジオの音はうるさくならないように配慮しており、採光はよしずで調整するなど、入居者が居心地よく暮らせるように常に心配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や道具を持ち込んだり、ご家族の写真を飾ったりして、それぞれの入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		